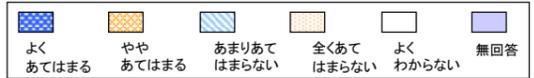


アンケートの結果			上段：児童 下段：保護者等 グラフ：教職員						
			A	B	C	D	よくわからない	無答	
学校全体の様子	1	教育目標・方針	児童・生徒や保護者等と共有できるように学校の教育目標を示し、方針を説明している。	56	29	7	2	5	0
	2	児童・生徒の様子	児童・生徒は、明るく素直で、生き生きとした楽しい学校生活を送っている。	44	48	6	0	3	0
	3	基本的な生活習慣	児童・生徒の服装や通学態度、挨拶など基本的な生活習慣がしっかりしている。	76	15	5	2	2	0
	4	児童・生徒理解	児童・生徒の良さや努力しているところを見つけ、励まし、理解しながら一人一人の能力を伸ばすように努めている。	53	44	3	0	1	0
	5	健康・安全・安心	児童・生徒の健康や安全（確保・対策）に配慮するとともに、主体的に行動できる防災教育を充実している。	55	33	8	2	2	0
学力向上の取組	6	分かる授業	楽しく分かりやすい授業が実践されている。	40	49	10	0	1	0
	7	個に応じた指導	習熟度別学習等、児童・生徒一人一人の理解の程度に応じた学習指導が行われている。	45	35	13	5	3	0
	8	学習習慣	放課後の補充指導等を行うとともに、家庭での学習課題を提示する等、学習習慣の定着を図る工夫をしている。	71	19	7	2	1	0
	9	情報教育	タブレットPCなど、ICT機器を活用した教育を推進しながら、情報活用能力の育成に向けて取り組んでいる。	49	41	9	0	1	0
	10	学校図書館の活用	読書と学習に役立つ学校図書館として活用されている。	56	30	10	2	2	0
社会性・人間性の育成	11	人権教育	自他を大切に、偏見や差別を許さない豊かな人権感覚を育てる教育を行っている。	67	22	5	2	4	0
	12	道徳教育	生命を大切にする気持ちや他人を思いやる心、善悪の判断や規範意識を育てる等、道徳性をほぐむ教育を行っている。	31	41	13	5	11	0
	13	教育相談	教育相談を充実し、いじめや不登校を防止する等児童・生徒一人一人の居場所がある学校づくりに努めている。	69	17	8	3	3	0
	14	人間関係づくり	学校行事等の教育活動を工夫し、体験活動を充実させながら望ましい人間関係が築けるよう取り組んでいる。	45	39	10	1	5	0
	15	自治的な活動	学級活動や児童会・生徒会活動等で、児童・生徒が自発的・自治的に活動できるように工夫しながら指導している。	77	13	5	1	4	0
保護者・地域との連携	16	情報発信	学校便りや学年便り、学校ホームページ等で、保護者や地域の方に、学校の教育活動の様子を分かりやすく知らせている。	56	35	4	1	4	0
	17	相談への対応	児童・生徒や保護者からの連絡や相談を丁寧を受け止め、適切な対応をしている。	75	16	4	2	3	0
	18	学校への参加	学校公開週間や土曜授業日、学校行事等では、保護者や地域の方が参加しやすいように工夫している。	63	25	8	1	4	0
	19	地域との連携	地域の行事などに協力的で、連携を図っている。	70	25	3	1	1	0
	20	意見の反映	保護者や地域から寄せられた意見や要望を受け止め、学校運営と教育活動の改善に努めている。	35	50	6	1	8	0
各学校の特色ある教育	21	生活指導重点項目【生活指導】	あいさつ運動やあいさつキャンペーンを通して、あいさつを意識させ、できるようにしている。	47	33	11	3	5	0
	22	研究の推進【研究推進】	外国語、外国語活動の研究を通して、自分の考えや想いを表現しようとする児童の育成に努めている。	38	52	6	0	4	0
	23	健康づくり【体育的行事】	体育の授業や休み時間、行事等を通して、児童の健康づくりの意識の向上に努めている。	52	24	12	5	7	0
	24	学校行事【体育的・文化的】	児童は運動会や文化的行事等で豊かな表現力を身に付けている。	35	44	9	1	11	0
	25	豊かな心【教科・教科外】	体験的な活動や読書、道徳科・特別活動等を通して豊かな心を育成している。	74	18	4	2	2	0



無効票を除く(%)

無効票を除く(%)

学校の自己評価（考察）	
教職員は達成できていると考えているが、児童・保護者共にAの割合が半数程度であることから、より教育目標に即した教育活動の実践が必要と考える。	
教職員の評価に対し、C・Dを選択した児童が一定の割合いることから、より児童の思いに寄り添った充実感の味わえる教育活動の工夫が必要だと考える。	
基本的な生活習慣は身に付いている実感は三者で共通しているが、教職員・保護者のBの割合が多いことから、改善が必要な項目もある。	
教職員の評価に対し、児童がC・Dを選択する割合が多い。このことから、教職員は一層児童の個性伸長・自己肯定感を高める指導に努める必要がある。	
保護者のCの割合が比較的高いことから、防災教育の取組を発信するとともに保護者参加型の活動を取り入れていく必要がある。	
教職員は授業に熱意をもって取り組んでいるが、C・Dを選ぶ児童が多いことから、指導法の改善には今後も努める必要がある。	
今年度は算数習熟度別の授業が実施できなかったため、C・Dの割合が昨年よりも増えたと考えられる。ICT活用を含め、指導法の工夫に努める。	
あらかわ寺子屋などの取組に一定の理解を得られているものの、家庭学習の習慣化への取組については、今後も改善が必要だと考える。	
ICT機器を活用した授業実践については、三者から高評価を得ている。今後、毎日持ち帰りの実施に向け、有効な活用方法を模索していく。	
三者とも高評価となっているが、学校図書館の活用について保護者への発信・啓発は今後も続けていく必要がある。	
教職員・児童と比べ、保護者のAの割合が少ないことから、学校における人権教育の取組の発信が不十分だと感じられるので、改善していく。	
教職員の評価に対し、児童の道徳教育に対する評価が低い。児童が授業や教育活動を通じて、道徳性を育むことができるよう指導法を改善していく。	
教育相談の体制については一定の理解と評価は得られているものの児童・保護者への発信・啓発については一層の充実を進めていく必要がある。	
体験活動による望ましい人間関係の構築については、三者、高評価となっている。今後も充実を図り、より良い人間関係を構築していく。	
児童の自発的・自治的活動が行えるように工夫していることが三者で高評価を得ているので、今後もさらなる充実を図っていく。	
保護者からは高評価となっている。今後はスクリーン配信となるため、児童にも学校発行のお便りが見られるようTPCのクラスルーム等を活用していく。	
児童・保護者からは高評価となっているが、Aの割合を高めていけるよう、より児童・保護者に寄り添った丁寧な対応を心掛けていく。	
新型コロナウイルスが5類に移行したことにより、公開の仕方を従来の形に戻したため、保護者からは高評価を得られた。今後も改善を進めていく。	
昨年と比較して児童・保護者からの評価は高くなっている。地域行事の紹介の仕方や参加への啓発についてはスクリーンを活用し改善していく。	
意見の反映については「よくわからない」という回答が目立つ。学校評価と改善点について分かりやすく示し、説明を行う必要がある。	
あいさつについては児童・教職員の評価がやや低い結果となっている。児童が意欲的にあいさつができるよう取組を見直し改善を図っていく。	
教職員の評価に対し児童の評価がやや低いことを受け、授業のねらいを意識させ主体的に学習に取り組めるよう指導法の一層の改善を図っていく。	
保護者からの高評価がある一方で児童からはより一層の充実を図る必要性が感じられる。運動する場や機会の確保に努め、改善を進めていく。	
保護者・教職員の高評価に対し、児童からの評価がやや低いことから、児童の思いや願いに寄り添った学校行事のさらなる充実が必要だと考える。	
様々な教育活動を通じて豊かな心の育成が図られていることに概ね理解を得ている。今後も学校ホームページを通じて情報を発信していく。	